

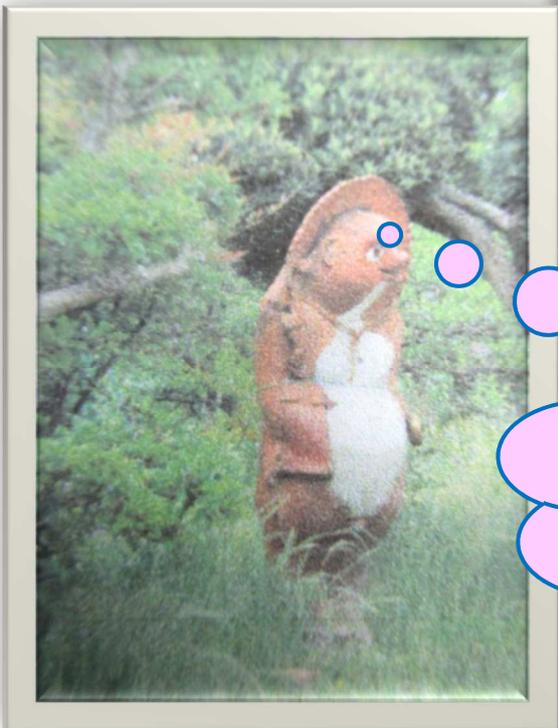
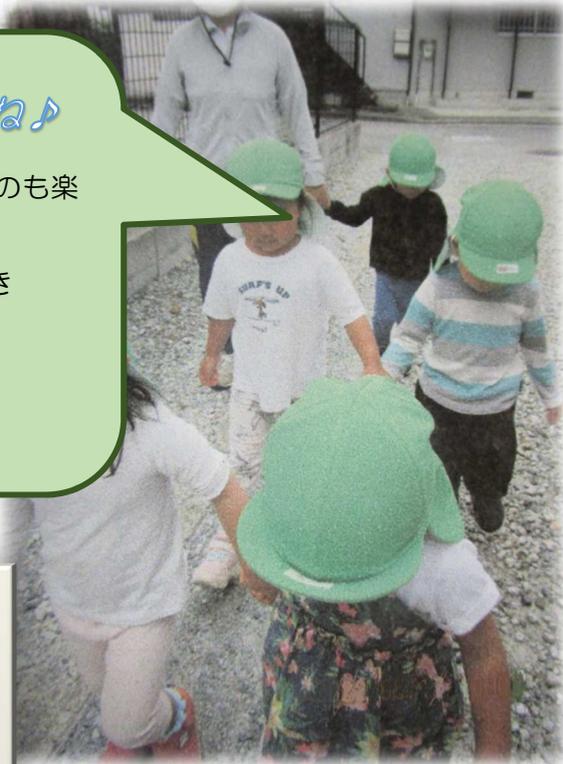
さんぽ



「さんぽに行くよ〜！」と声をかけると、大喜びで集まってくる子どもたち。
友だちと手をつないで歩くと、見慣れた景色もまた違う風に見えるのかもしれない。
子どもの目線からは大人の目線では見えないものがたくさん見えます。
それを子どもたちが指さしや言葉で伝えてくれ、一緒に見て、共有することで
職員にとっても新しい発見がたくさんあります。
また、季節ごとの自然に触れる事もできます。
アスファルトの道だけでなく、階段、細い道、砂利道、坂道・・・さまざまな道を歩くなかで
自然とバランスを取って歩けるようになっていたり、体力もついていきます。
さんぽは子どもたちにとって体も心も育つ大切なものであると考えています。

手をつないで歩くと楽しいね♪

目的地を決めず、住宅街の中を歩くのも楽しい子どもたちです。
砂利道は歩くと音がすることに気付き
その発見を友だちと共有することで
楽しさが倍になります！



さんぽで見つけた「たぬきさん」です！
「おーい！たぬきさーん！」と呼びかける子どもたち。
見ていると微笑ましくて、幸せな気持ちになります。



アジサイの花を見つけて

「きれい！」

「カタツムリいるかなあ？」

と、会話もはずみます♪

保育所の中だけでは見ることができない

季節ごとの自然に目を向けたり、触れる事ができるのも、さんぽの魅力のひとつです。

この細い道はどこにつながっているのかな？

細い路地は“秘密の道”という感じがして歩いているだけでワクワクしてきます。

友だちと歩く事で、より“ワクワク感”が増します。

「おばけがでてくるんじゃない？」

「でてきたらどうする？」

などと想像をめぐらせている子どもたちです。



子どもたちが歩くペースに合わせて歩いていると、普段は気付かず見過ごしている景色を見ることが出来ます。

空を見上げると、もくもくと大きな入道雲は夏の空、うろこ雲やいわし雲は秋の空・・・

季節ごとに空の様子も変わっていきます。

葉っぱ、どんぐり、石ころ、枝・・・どんなものも子どもにとっては魅力的な宝物のように見えるようです。